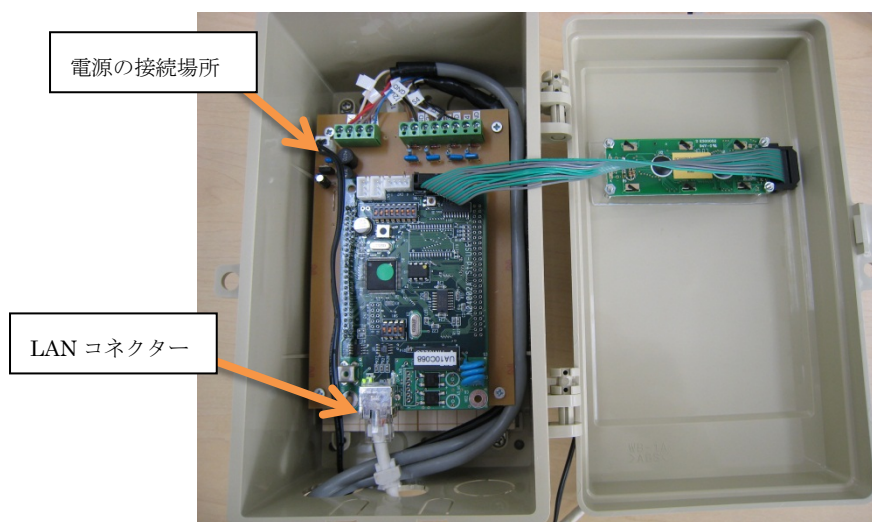
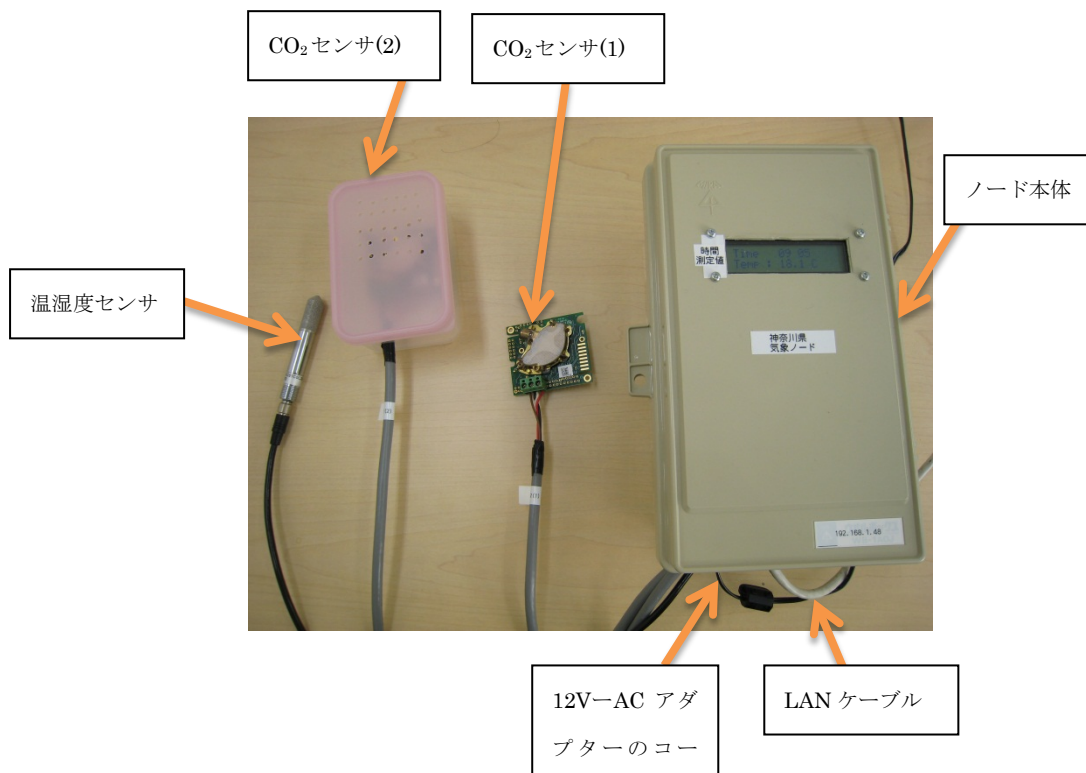


1. ノード外観



注: CO<sub>2</sub> センサ(1)は防水していませんが, むき出しのまま使用しないようにしてください.

## 2. ノードの使用方法

### (1) ノードとパソコンの接続

接続方法は2種類あります

- ・ (ノード) - (クロス結線の LAN ケーブル) - (パソコン)
- ・ (ノード) - (LAN ケーブル) - (スイッチングハブ) - (LAN ケーブル) - (パソコン)

のいずれかで、設定してください。

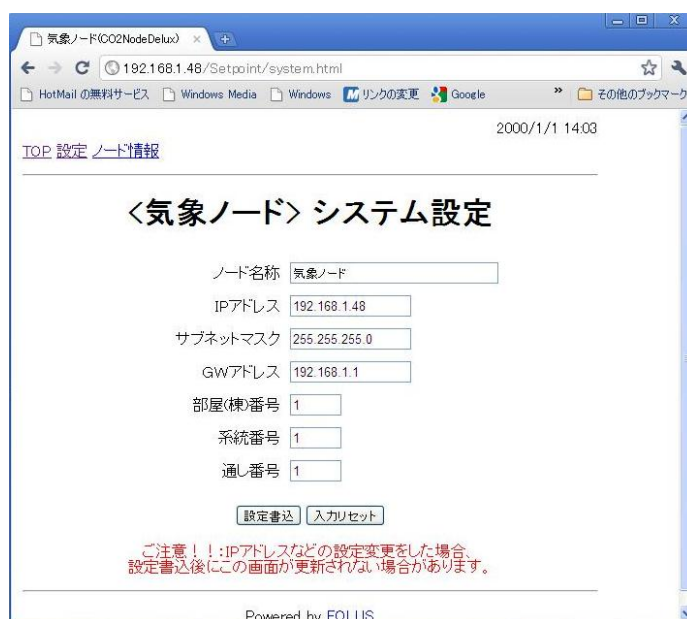
パソコンの IP アドレスは

IP アドレス	:	1 9 2 . 1 6 8 . 1 . * * *
サブネットマスク	:	2 5 5 . 2 5 5 . 2 5 5 . 0

で設定してください。\* \* \*の部分は1～254の値を設定してください。ただし、48はノードで利用するのでそれ以外の数字を設定してください。



ノードを接続してブラウザで 192.168.1.48 にアクセスすると最新の測定情報が表示されます。



192.168.1.48/Setpoint/system.html と入力すると IP アドレスの設定などができます。部屋（棟）番号などの設定を変更すると、設定ファイルを書き換えないとグラフなどで表示されなくなります。

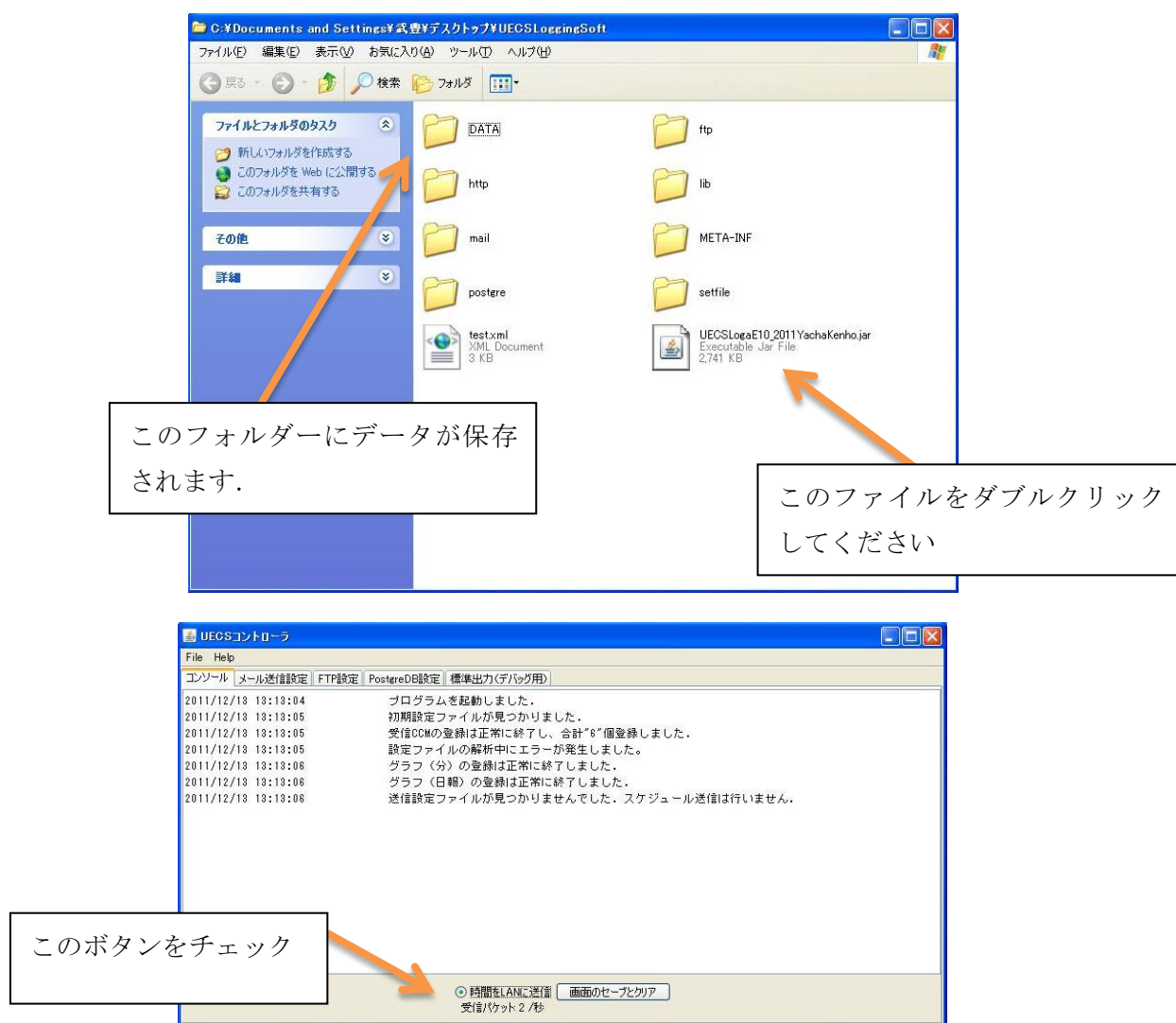


192.168.1.48/Setpoint/set0.html にアクセスすると基準電圧入力と CO<sub>2</sub> 調整 (No2 センサ) が入力できます。

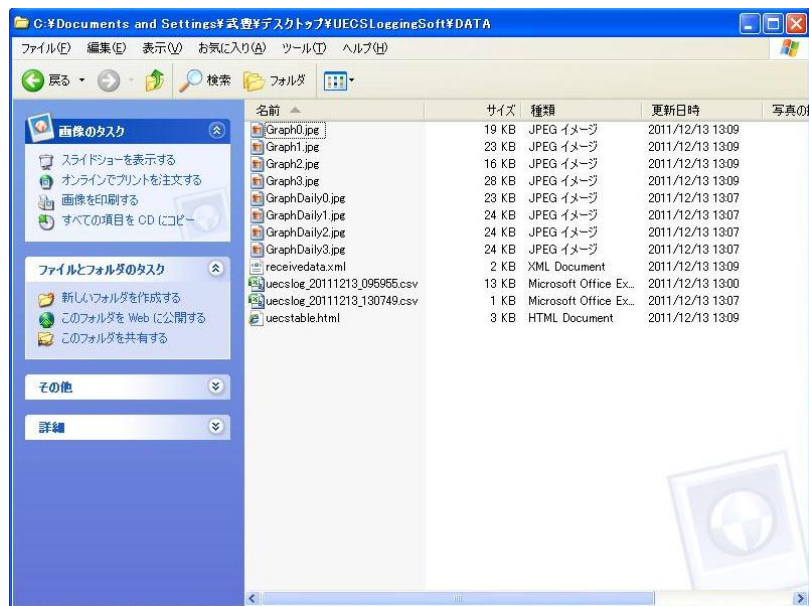
- ・ 基準電圧はノードの電圧を入力しますが、基本的には変更しないでください。
- ・ CO<sub>2</sub> 調整 (No2 センサ) は CO<sub>2</sub> センサの値を調整するために設定します。No1 のセンサと No2 のセンサは事前にキャリブレーションにしていますが、基本的に誤差が多いセンサーなので、同じ雰囲気でも測定しても値に差が生じます。No2 のセンサと No1 のセンサで同じ値に調整したいときにこの値を設定します。値を大きくすると、No2 センサの CO<sub>2</sub> 濃度が高く表示され、小さくすると低く表示されます。

### 3. データのロギング用ソフトウェア

データロギング用ソフトウェアは UECSLoggingSoft というフォルダー内の UECSLogaE10\_2011YachaKenho.jar というファイルをダブルクリックすると利用できます。test.xml で記載された内容に従って動作しますが、今回のノード用にファイルは作成しているので変更する必要はありません。ソフトウェアを立ち上げると、UECSLoggingSoft の下の DATA ディレクトリに 1 分ごとのノードから送信された最新の値が CSV ファイルで保存されます。



ロギング用ソフトウェアを立ち上げるとこのような画面が現れます。エラーが表示されますがとりあえず無視してください。“時間を LAN に送信” ボタンは基本的にチェックしておいてください。



DATA フォルダの中はこのようになっています。Jpg ファイルは CO<sub>2</sub> や気温などの時系列グラフです。uecstable.html は 1 分ごとの最新の情報を表示されます。CSV ファイルは 1 分ごとの受信情報が保存されています (save は 10 分ごと)。CSV ファイルは基本的にデスクトップにコピーしてから閲覧してください (エクセルなどで閲覧中の時には、ロギングソフトウェアで save できないため)。